

議長定例記者会見の概要

日 時：令和5年6月28日(水)
午前11時05分～11時22分
場 所：議長応接室



6月定例会を終えての議長所感

(濱砂議長)

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。6月定例会も本日28日をもって、20日間の会期を終えたところであります。今定例会では、令和5年度宮崎県一般会計補正予算（第2号）など合計29件の知事提出議案を全て原案のとおり認めたところです。このほか、議員発言の発議の議案として5件の意見書を可決しました。

一般質問では17名の議員が登壇しました。議員の関心が高かったものとしては、4期目となる知事に対しての政治姿勢をはじめ、物価高騰等に関わる地域活性化対策や、農業の振興対策などであり、県政の様々な課題について活発な議論が展開されました。

先般の統一地方選挙で初当選された議員12名のうち8名が登壇しましたが、いずれの議員も、県民の声に真摯に向き合っており、それぞれの政治信条が垣間見えたようでありました。実に堂々とした質問であり、今後も、新しい風を吹き込んでくれるものと思います。

傍聴者数についても全体的に戻りつつあると感じております。県議会では、若者の政治への関心を高める取組として、県内大学と連携を図っているところであり、6月定例会の一般質問初日には、地方自治を学ぶ授業の一環として、宮崎産業経営大学の学生20名に傍聴いただきました。今後とも多くの県民の皆様が傍聴に来ていただけるように、魅力ある県議会づくりに努めてまいりたいと思います。

6月7日に本県で、九州・沖縄の各県議会正副議長が集まり、「九州各県議会議長会」が開催され、座長を務めました。会議では、各県から提案された議案を審議・採択いたしました。採択された議案は、全国都道府県議会議長会定例総会に要望事項として提出され、国に対して要望活動を積極的に行っていくこととなります。今後も、「九州はひとつ」の理念のもとに九州各県議会と相互の連携を深めながら、力を合わせて、共通する課題に取り組んでまいりたいと思います。

また、6月20日に行われた全国都道府県議会議長会において、国土交通委員会の委員長に就任しました。本県の課題でもある道路交通網等、社会資本のさらなる整備に向けてしっかりと役職を担っていきたいと思っております。私からは以上です。

質疑応答

【共同通信】

永山副知事の後任として佐藤弘之氏選任の議案に同意されましたけれども、佐藤氏に期待されることを教えてください。

(濱砂議長)

続けて国土交通省から来られるわけですが、課長等の経験をされているということで本県の実情もよく分かっておられると思います。早く宮崎に馴染んでいただいて、県土整備の分野などで御尽力いただきたいと思っています。

【読売新聞】

4人連続で国交省からということで、副知事に国交省出身の方がなることのメリット等、執行部とのやりとりの中で感じたことがありましたら教えてください。

(濱砂議長)

宮崎県の道路整備は九州の中でも遅れている状況であり、他県に追いつけ追い越せという気持ちで我々も取り組んでおります。佐藤弘之氏は国交省との人脈をお持ちですので、全国レベルに宮崎県を上げていただくことについて非常に期待しています。

(日高副議長)

国土行政に携わってきた方であり、全国的な課題だけでなく、宮崎県のインフラ整備の課題も十分把握されていると思います。佐藤弘之氏が本県にいらしたことは、災害対策やインフラのさらなる整備という面で非常に大きい人事であると思っています。

【宮崎日日新聞】

国交省出身者が4人続いており、全国と比べると経済や産業の基盤等が弱く立ち後れている中で、議会の中には、他省庁の方を望む声はないのか教えてください。

(濱砂議長)

インフラ整備は非常に裾野が広く、本県にとって公共投資は非常に重要であり、経済

全体が潤う要因になると思います。また、宮崎県はスギの素材生産日本一が31年間続いている林業県でもあります。木材価格の低迷によって今まで経済が冷えていました。少しは木材の価格も上向きになりましたが、これもいつまで続くか分からない状況であります。他にも後れている分野はあり、他省庁からも来ていただくのはありがたい話ですが、議員の中で他省庁の要望は聞いておりません。

【宮崎日日新聞】

新人の議員12人中8人が登壇されて、フレッシュな顔ぶれだなというように感じましたが、印象に残っている議論があれば教えてください。

(濱砂議長)

自らの体験を持って議場の中でお話をされたり、市議会議員を経験された方たちがいたりフレッシュさを確かに感じました。皆さん、堂々とされており、今後、大いに期待しています。

(日高副議長)

質問もうまくまとめられており、スムーズに議論が進んでいたように思います。印象に残っているのは、工藤議員が、ご家庭の事情を踏まえながら、障がい者の短期入所施設が県北には少ないのではないかとといった議論をされたり、下沖議員が体験談を交えながら子育て支援について議論され、出生率を上げるための施策について意見をされておりましたが、確かに重要であると感じました。

【共同通信】

議長の所感のところで、傍聴者数についての言及があり、大学生も傍聴に来られたということで魅力ある体制づくりに努めたいというお話がありましたが、具体的に何か行っている取組などがあれば教えてください。

(濱砂議長)

一般質問、代表質問も含めてですが県民が本当に興味、関心がある質問をしていかなければならないと思います。

面白い県議会なら人が集まるかもしれませんが、充実した議論をしながら、どのように傍聴者を集めるかは難しい問題です。工夫をしながら魅力のある県議会づくりをしていく必要があると思います。

【読売新聞】

県の選挙管理委員会が、年齢別の県議選の投票率を発表しており、18～19歳が19.7%で、20～24歳19.96%といずれも20%を切っていますが、若い世代の低い投票率についてはどのように受け止めていますか。

(濱砂議長)

若い世代の投票率が低いことは肌で感じています。高齢者の方たちがまだ若い頃は、インフラの整備等社会に対して要求するものや期待するものが多かったらうと思います。高齢者が育った時代からすると、若い人たちの政治に対する期待感というのが薄れてるのかなと思います。若い世代が期待を高めるということは難しい課題ですが、努力をしながら、魅力ある県議会を目指していく必要があると思っています。